

# 東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.22 2018.6)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第22号をお届けします。

第22号では、2018年6月28日に仙台で開催しました東北ハイテク研究会の「知」の集積による産学連携推進事業講演会の内容についてお知らせします。なお、ここで掲載してある講演資料につきましては、全体の概要版です。

## 2018年度 「知」の集積による産学連携推進事業講演会の概要

平成30年度 東北ハイテク研究会 講演会

○知恵と工夫と住民力で中山間地域農業の未来を切り開く  
—NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦—  
武藤 一夫(前理事長、現理事)

○競争的外部研究資金を獲得するためには  
—イノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心に—  
門間 敏幸(東北ハイテク研事務局長)

(30/06/28開催 仙台市)

◆農林水産・食品分野において、生産者、民間企業、大学、公立試験研究機関、国立研究開発法人等が連携して実施する技術的課題、現場の研究開発ニーズを知るとともに、最新の研究成果を多くの方々に情報提供し、産学連携支援事業の推進を図ることを目的に講演会を実施しました。今回は、NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の前理事長・現理事である武藤 一夫さんと、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 門間事務局長から講演をいただきました。

◆第1講演者の武藤さんからは、○知恵と工夫と住民力で中山間地域農業の未来を切り開く—NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦—というテーマで、住民主体の地域づくりが成功した要因と、今後の新たな取り組みの方向について報告がおこなわれました。成功要因の基本は、決して背伸びをせず、自らが必要だと思う・やりたいと思う活動を行う事、地域の宝を活かし次世代に繋ぐこと、外部の人々を積極的に地域に受け容れること、そして外に対して開かれた活動をすることが重要であることが強調されました。

◆第2講演者の門間事務局長からは、○競争的外部研究資金を獲得するためには—イノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心に—というテーマで、今後の国全体としての競争的研究資金の重要テー

マ、農林水産省の『「知」の集積と活用の場』の取り組みが目指すもの、そしてイノベーション創出強化研究推進事業の内容と応募・採択に向けての申請書の書き方、面接対応の仕方について話題提供が行われました。

◆質疑討論では、武藤さんに対しては住民主体の活動展開に於ける役場や農協との関係のあり方、6次産業化の取り組みに於ける商品開発でなかなかヒット商品を生み出せないことについて、どのように考えて対応しているかといった質疑が行われました。

門閥事務局長に対しては、競争的研究資金の採択通知が遅く、採択されても初年度の研究が出来ないといった問題への対応を農水省に伝えて欲しいという要請、さらには申請書の簡略化の要請などが出されました。

## 武藤さんの講演要旨



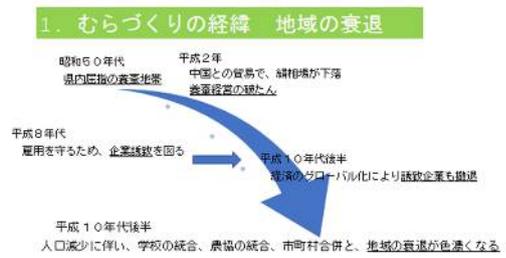
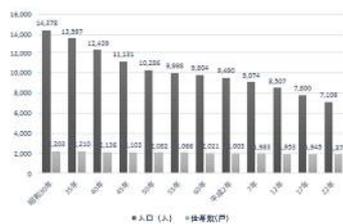
**知恵と工夫と住民力で  
中山間地域農業の未来を切り開く**  
NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦  
Yuki Village Council of Building Towa Home Village

**武藤 一夫(前理事長、現理事)**

- 市町合併を機に、  
自立する地域づくりを目指す**
- 道の駅ふくしま東和を拠点とし指定管理者の業務活動 **地域づくり**
  - 地域の農産物・特産品・加工品・工芸品などを **販売** を業とする
  - 地域の **交流** の拠点としての業務
  - 住民の **福祉** 活動



都市への一極集中・・・地方の疲弊が始まる



## 「ゆうき」をもって!

農家9人の挑戦 福島県東和町

嘗て、青年団で地域を語った  
9人が集結仲間が  
酒を飲みかわし地域を語り合った





自然循環の堆肥センターの活用  
自然豊かな里山の恵みを生かした地域活性化・  
多くの産地野菜の中からどう選んでもらう  
生産する野菜の差別化

### 「げんき野菜」のブランドづくり

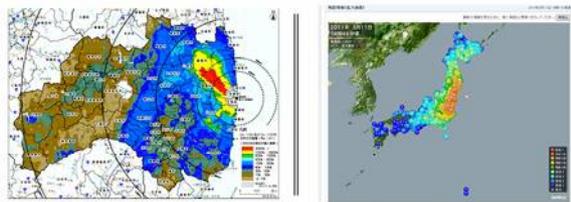


- 野菜ブランド東和「げんき野菜」
- 1 土壌診断年1回以上
  - 2 施肥計画の提示と指導
  - 3 農薬化学肥料の使用を特別栽培基準に指導
  - 4 栽培履歴書の提示
  - 5 葉物野菜の硝酸イオン量が  
EJガイドライン以下など、5項目の独自基準による栽培
  - 6 放射性物質の測定
- 野菜の放射能の量を測定し開示する

独自認証ブランド東和「げんき野菜」を生産

### 相談窓口や農業研修などを通して受入

#### 新規就農者の受入



青天の霹靂 2011年 3月11日 14:46



放射能測定  
民間の団体から貸与  
市民放射能測定所と連携

### 二本松市東和地区（約2000ヶ所）



### 放射性物質測定

9000検体以上

ID	産地	検入先	品名	測定値(Bq/kg)			検出日	検出時	測定時間(分)	測定機関	測定所	備考
				133I	Co134	Co137						
9481	二本松市 (Ibama)	東和	豆腐	ND	ND	2011-11-18	11-20	1800	PMF401	CHRG二 地産地消 取		
9130	二本松市 (Ibama)	東和	大根	14.90	ND	10-14	10-15	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取		
8781	二本松市 (Ibama)	東和	じゃがいも (国産物)	ND	ND	07-22	08-21	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取		
2002	二本松市 (Ibama)	東和	じゃがいも (国産物)	14.36	ND	07-21	07-21	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取	(注)	
9165	二本松市 (Ibama)	東和	大根	11.45	ND	10-14	10-15	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取		
9163	二本松市 (Ibama)	東和	大根	14.39	ND	10-15	10-16	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取		
13423	二本松市 (Ibama)	東和	大根	13.71	ND	11-05	01-21	1800	AT1320A	CHRG二 地産地消 取		

### 豊かなむらづくり顕彰事業 日本農林水産祭り（2017）

他地域への普及性と今後の発展方向  
 本取組は、産を活用した特産品の商品化  
 有機栽培野菜など独自認証ブランドの生産

東日本大震災後もいち早く復興に向けて活動  
 都市と農山漁村の交流、移住推進にも成果  
 今後の発展が大きく期待できる。

衰退した養蚕業、原子力発電所事故などの困難な条件を  
 克服し、地域資源や地域特性を活かした自主的営力と創  
 意工夫を固めており、全国におけるむらづくりのモデル  
 事例になり得るものである。



大学調査関係者から 一般人も交え民宿を生かした都市住民、外国人観光客との交流が活発に



静かで質素な生活は、絶え間ない不安とともに成功を追い求めるよりも多くの喜びをもたらす

### まとめ

- 中山間地域の悩みは現在抱える高齢化社会の問題と酷似する。
- 高齢者支援において、東和の高齢者は生きがいをもって生活する。
- ポイント
  - あくまでも当事者の考え方⇒やる気のない中での支援は、何をどうしたいかというも当事者ポイントが分かれば効果が見える。
  - 総じて、勝手に回ります。

## 門間事務局長の講演要旨

2018年6月28日(木)  
東北食農連携ネット (FACNet) 講演会資料

**競争的外部研究資金を獲得するためには**  
**—イノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心に—**

東北地域農林水産・食品  
ハイテク研究会 事務局長  
門間 敏幸

**講演の内容**

1. SIP、Society 5.0とその実現に向けたイノベーション戦略
2. 『「知」の集積と活用』を知る
3. イノベーション創出強化研究推進事業について
4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向



2. 『知』の集積と活用の場を知る	研究開発プラットフォームの課題と活動の持続性の確保	3. イノベーション創出強化研究推進事業について	事業が目指す目的
-------------------	---------------------------	--------------------------	----------

イノベーション創出強化推進事業の加点对応で急増した研究開発プラットフォームの課題

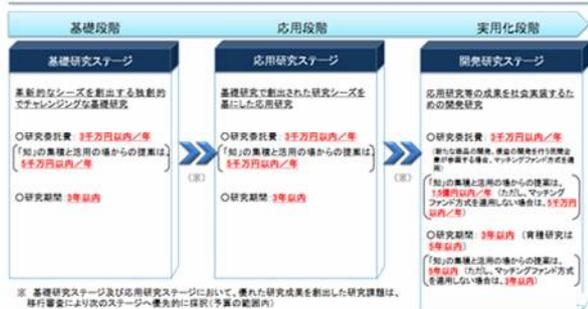
- ① 研究代表者＝プロデューサーという特定研究分野に偏ったプラットフォームが多く設立された
- ② 競争的研究資金が確保出来ない場合、その運営経費の捻出が難しくなる
- ③ 産学連携協議会が開催するプロデューサー会議へ出席しないプラットフォームが増えている
- ④ 活動が低下して、参加企業が離脱する可能性がある

研究開発プラットフォームの活動を活性化して持続させるためには

- ① 一番大切なのは、参画する研究者、生産者、企業にとって魅力ある活動を持続的に展開すること
- ② プラットホーム運営経費の捻出。農林水産省の産学連携推進事業の研究開発プラットフォーム運営等委託事業の整備をめざす。さらには会員自身が会費を出して運営できるようにする。そのためには、一定の会員数を確保する必要がある

- ◆ 農林水産・食品分野の競争力の強化による飛躍的な成長の実現。
- ◆ 従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出す研究開発の実践。
- ◆ オープンイノベーションの場としての『知』の集積と活用の場の目的実現を目指すイノベーション創出研究として位置づけられる。
- ◆ 以上の目的実現を目指す提案公募型の研究開発事業が「イノベーション創出強化研究推進事業」であり、平成30年から実施される。
- ◆ 「基礎研究ステージ」及び「応用研究ステージ」における実施課題の70%以上において、革新的な技術成果や実用化につながる技術成果を、「開発研究ステージ」における実施課題の80%以上において、商品化・事業化が有望な研究成果の創出を目指す。<sup>13)</sup>

3. イノベーション創出強化研究推進事業について	3段階の研究ステージで公募	3. イノベーション創出強化研究推進事業について	研究プラットフォームからの提案への優遇措置
--------------------------	---------------	--------------------------	-----------------------



2-4 『知』の集積と活用の場からの提案への優遇（研究ステージ共通）

- 『知』の集積と活用の場によるオープンイノベーションを推進する観点から、『知』の集積と活用の場による研究開発プラットフォームからの提案については優遇
  - ① 研究委託費上限額の拡大
  - ② 研究期間の延長（開発研究ステージのみ）
  - ③ 採択審査時に加算ポイント
- 具体的な措置については、各研究ステージの概要を参照

○ 優遇を受けるための要件

- ・ 『知』の集積と活用の場の研究開発プラットフォームから形成された研究コンソーシアムであること
- ・ 研究コンソーシアムが、同一の研究開発プラットフォームにおける2セクター<sup>(※)</sup>以上の研究機関等で構成されていること

※ 研究機関等の分類  
セクターⅠ: 都道府県、市町村、公設試、地方独立行政法人  
セクターⅡ: 大学、大学共同利用機関  
セクターⅢ: 独立行政法人、特殊・認可法人  
セクターⅣ: 民間企業、公益一般法人、NPO法人、協同組合、農林漁業者

3. イノベーション創出強化研究推進事業について	マッチングファンド方式について	3. イノベーション創出強化研究推進事業について	研究開発プラットフォーム運営等委託事業②
--------------------------	-----------------	--------------------------	----------------------

2-5-3 マッチングファンド方式<sup>1)</sup>

- 研究開発を進めることが民間企業の新たな商品、サービスの開発を行うこととなる場合、当該民間企業が必要とする総費の1/2以上を負担（マッチングファンド方式）

【マッチングファンド方式のイメージ】

	企業支出分 (自己負担)	生研支援センター支出分(国費)	
パターン① (民間企業が1社の場合)	A社 2,000万円	A社 4,000万円	大学、公設試、国研等
パターン② (民間企業が複数の場合)	A、B、C社 2,000万円	A社 1,000万円 B社 1,000万円 C社 2,000万円	大学、公設試、国研等

- 国費や自己負担は、研究グループの取り決めに従って配分
- 自己資金を負担する民間企業については、①第3期の決算報告において、②1期でも債務超過がある、③3期連続して経常損失を計上している、場合は採択されないことがある

<sup>1)</sup> これまでの『知』の集積と活用の場による研究開発モデル事業<sup>2)</sup>では民間企業が負担する額は、研究グループ全体の総費の1/2以上を占めていたが、中小企業等が参画しやすいよう、民間企業の研究に国費の1/2以上に国費

- ◆ 『知』の集積と活用の場において、一定のテーマのもとで新たな商品化・事業化に向けた共通の課題に取り組む研究開発プラットフォームの活動を支援。
- ◆ 平成30年度は、A:複数数の研究開発プラットフォームから構成される連合体として行う共通の課題に関する調査および試験等の活動を支援する事業、B:単独の研究開発プラットフォームとして行う体制の整備や研究戦略の策定等の活動を支援。

	内 容	採択予定件数	実施期間	平成30年度 限度額
A 研究開発プラットフォーム連合体対象	仕様書Aのとおり	最大3件	平成30年度	4,000千円/件
B 研究開発プラットフォーム対象	仕様書Bのとおり	最大4件	平成30～32年度	2,500千円/件

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	平成30年度 応募状況	4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	短い説明時間の面接審査
-----------------------------	-------------	-----------------------------	-------------

イノベーション創出強化研究推進事業  
応募状況

	応募数	面接審査
①基礎研究ステージ	85	19
②応用研究ステージ	83	21
③開発研究ステージ	52	30
計	220	70

15

(1) 説明、質疑、審査結果の検討

課題ごとに研究提案内容を説明後、評議委員から質疑を行い、審査結果の検討を行う。

基礎研究ステージ 1課題当たり 説明10分、質疑10分、評価5分(計25分)

応用研究ステージ 1課題当たり 説明10分、質疑10分、評価5分(計25分)

開発研究ステージ 1課題当たり 説明10分、質疑15分、評価5分(計30分)

(2) 出席者

① 説明者

研究統括者を含め3名。

② 2次(面接)審査対応者

外部専門家、外部有識者、農林水産省職員(地方農政局等職員含む。)

16

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	審査書類をどう書くか (審査員からの視点)	4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	申請書を執筆する場合の 5つの基本
-----------------------------	--------------------------	-----------------------------	----------------------

基礎研究ステージ [研究区分共通]	研究計画調書	【必須】
・様式1	研究計画調書	【必須】
・様式2-1	研究課題概要図	★【必須】
・様式2-2	研究課題のポイント	★【必須】
・様式2-3	共同研究グループの構成	★【必須】
・様式2-4	「知」の集積と活用場の場 研究 開発プラットフォームの概要	【必須】
・様式3	研究課題内容	★
・様式4-1	経理事務体制について	【必須】
・様式4-2	参画機関の知的財産への取組 状況等	【必須】
・様式5-1	研究管理運営機関を活用する理 由書	【必須】
・様式5-2	研究支援者の情報等	【該当】
・様式5-3	研究ネットワークから立ち上げ られた研究コンソーシアムによ る応募	【該当】

採択ポイント  
—その1

◆農水省の申請書類は  
100頁を超えるものが  
多く、書くのも読むの  
も大変  
◆審査員が重視するの  
は研究課題概要図、研究  
課題のポイント、研究  
グループの構成、研究  
課題内容

17

◆審査員は膨大な審査書類を読まされるという事実。

＜あなたならどう審査しますが  
審査員の気持ちになって  
おそろく次の6点で評価する

採択ポイント  
—その2

◆大変な審査を行う審査  
員の気持ちになって申請  
書を書くこと。

- 1) 申請書の内容がわかりやすいか
- 2) 獨創性、先端性があるか
- 3) 研究成果を確実に実現できる実力があるか
- 4) 研究組織のリーダーとしての実力があるか
- 5) 予算積算が正しく行われているか

18

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	わかりやすく書いてあるか	4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	獨創性、先端性のPR
-----------------------------	--------------	-----------------------------	------------

＜わかりやすい申請書を書くためには＞

- 1) 誤字脱字厳禁。
- 2) 切れの良い文章を書く(1人1人)
- 3) わかりやすい図表を入れて審査員の読む負担を軽減する。
- 3) 重要なポイントを強調する(強調されたポイントだけを讀んでも内容全体が理解できるようにする)
- 4) 与えられた分量(文字数)の8割以上は書く。

採択ポイント  
—その3

◆見やすく、内容がスピーディーかつ素人でも理解できるように審査書類を書くことが大切。

19

＜獨創性、先端性を理解してもらうためには＞

- 1) 研究内容が専門分化していない内容を理解できない
- 2) 文献レビューをきちんとして位置づけ審査員にわかるように
- 3) 社会の動向や問題を先取りすること
- 4) 研究の獨創性を示す新たな概念やキャッチフレーズを出すことも大切。

採択ポイント  
—その4

◆研究の獨創性、先端性を理解してもらえるように申請書を書く工夫をする

20

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	<b>研究代表者の実力のPR</b>	3. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	<b>予算積算をきちんと行う</b>
-----------------------------	--------------------	-----------------------------	--------------------

**<研究代表者の研究リーダーとしての実力をPRするポイント>**

採択ポイント  
—その5

- 優れた研究業績をPR
- 研究分担者には分担する研究・研究成果の社会実装に最適な生産とをPR
- 研究の主要部分は、研究代表者が担当する
- 知的財産の適切な管理を行える体制、研究のマネージを行えるシステムがあることをPR

◆この研究代表者なら確実に成果を実現してくれると思わせるようにすることが大切。

**<予算積算をきちんと行うポイント>**

採択ポイント  
—その6

- 毎年同じ金額の予算を計上する
- 研究の進捗状況に応じた予算
- マッチングファンド方式を採る多さと、分析機器などへの支出の多さを、分析機器などへの支出の多さと、分析機器などへの支出の多さを減額対象とする。減額するように計画を策定しておくことが大切。
- 旅費の積み上げがよい加減な課題が多い。

◆国民の血税を使うという意識を強くもって予算書を作る。無駄な予算・過大な予算計画を作成しないこと。

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	<b>その他の留意事項</b>	4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	<b>「研究課題のポイント」「研究課題内容」の書き方のポイント</b>
-----------------------------	-----------------	-----------------------------	-------------------------------------

**<この点も重要>**

- もし、自信がある課題ならば、1回落れても審査員のコメントを参照して修正して毎年(委員は毎年半分が変わる)。ただし、変更した方がよい。評価を高く付けたと解釈すべき。
- 審査後に開示される審査員のコメントがある。次年度も応募する場合はマイナス意見への対応を考える
- 申請書は、最後に専門家などには「読みやすいか」「わかりやすいか」などに応募した場合は家内に見てもらい、OKがでるまで直した。

採択ポイント  
—その7

◆採択されなくても諦めないこと。審査員のコメントを参考に再チャレンジ。  
◆再チャレンジすべきかどうかを自分で判断するのは難しい。他人の意見を聞こう。

採択ポイント  
—その8

◆「研究課題のポイント」「研究課題内容」は一番重要な部分。ここをしっかりと分かりやすく書くこと。

注目される書き方のポイントは、次の3つ

- だらだらした文章にメリハリを持たす。そのため、重要なキーワードを目立つように(強調文字、アンダーライン、文字の彩色等)して、キーワードだけを目追っても研究内容を理解できるように工夫する。
- 研究課題内容については、必要ならば図表、写真などを入れて文章を減らして見やすくする。
- 研究成果の出口戦略が不十分な申請書が多い。研究成果の社会・経済へ及ぼす効果、ビジネスモデルを数字で示すことが大切。

4. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向	<b>第2次(面接)審査のポイント(1)</b>
-----------------------------	--------------------------



◆とにかく時間が短い(10分)、しかも時間厳守(10分)で説明打ち切り。伝えたいことをはっきりと伝える。簡潔な説明は印象面でもマイナス。

◆審査員は、義務を果たそうと質問する。一人の質問に対して時間を多く使うと、他の審査員が質問できなくなりマイナス。質問には短く簡潔に答え、数多くの質問を受けるのがコツ。

◆厳しい質問にしろもどろすると、次々と厳しい質問がくる。特に当該分野の専門家として出ている審査員の質問に答えられないと、審査員同志の討議の場で問題を指摘され、他の審査員が評点を低くすることがある。専門家には注意!

◆ビジネスモデルをきちんとしておかないと、問題を指摘される。

審査風景はこんな感じ!  
会場・審査員数はこの倍くらいある!

**ご静聴ありがとうございました。**

東北ハイテク研究会では、中核コーディネーター3名、専門コーディネーター17名を配置しており、競争的研究資金への応募・獲得のための支援を重要な業務としております。

皆様方からの支援要請をお待ちしております。